会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第6回教職員研修実施委員会 |
| 開催日時 | 令和6年2月13日（月）15:00～17:00 |
| 場所 | オンライン |
| 出席者 | 事業責任者：成底　敏、岡村　慎一　　　　　　　　　　　計2名委　　　員：泉田　優、佐藤　善邦、藤井　達也、藤井　貴志、遠藤　和彦、栗林　直子　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計6名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計9名 |
| 議題等 | 1. 本年度の振り返り（泉田）

・FD・SDセミナーの東京会場は、既に報告しておりますので、割愛します。FDセミナー福岡は令和5年11月29日にリファレンス駅東ビル貸会議室を会場として27名の参加で開催しました。・SDセミナーはFDセミナーの翌日に参加者27名で開催し、東京会場ともども無事開催することができました。・職業教育のマネジメントセミナーは、令和5年1月18日に福岡にて24名、1月25日に東京にて28名の受講者にて開催しました。セミナー講師は、①三菱総研久保寺さんが職業教育のマネジメント出発点「育成する人材像」の考え方、②日本電子専門学校の船山先生が学生アンケート、③上尾中央医療専門学校の神山先生が卒業生及び就職先上司を対象とした卒後アンケート調査の紹介と報告をテーマとしてご講演をいただき、その後岡村先生をファシリテータとしてグループディスカッションが行われました。・自己点検・評価強化セミナーは、令和5年1月19日に福岡にて22名、1月26日東京にて24名の受講者にて開催しました。セミナー講師は、自己点検・評価のモデルについて八木先生にお話しいただいております。・受講者アンケートも100％回収でき、良い情報収集につながったと感じています。―――――――――――意見交換・FD・SDに参加しました。アンケートの結果のとりまとめを担当し、大変良い結果だったと思います。平先生の研修についてはちょっと経路が違う研修になったかなと感じています。また、SDセミナーはちょっと盛沢山すぎたように感じました。講演を軽くして、ワークを多く取り入れたほうが良いと思った。（遠藤）・FDは、何度か事前打ち合わせを行い、結果として良かったかなと思いました。平先生に関しては、東京を踏まえて福岡は若干修正した。SDは、ワークや質疑の時間をもう少し取りたかった。（佐藤）・職マネ・自己点検を担当しました。内容は濃いものになった。逆に内容が濃かったので、2つのセミナーを1回に行うのではなく単独で実施することが良いのではないかと思った。1日目と2日目のグループを変えたことが良かったと感じている。（栗林）・研修の目的や参加者の姿勢については満足のいくものだと思っています。タイムマネジメントについて、少しコントロールが必要な部分はあるが、セミナー自体は成功したと感じている。（成底）・SDは参加できなかった。受講者がセミナーを受けてどのような満足を得たのかを見えるかすることが重要だと考えた。効果測定方法が明確になると良かったと思う。テーマの選定についてはその時その時のニーズに合わせて発案することを強く感じた。（岡村）・広報の対応をしたが、参加者が多くて良かったと感じている。（藤井達）２．成果報告について・私がPPTと動画を作成する。（泉田）・本年度の振り返りや次年度以降への思いを動画として2月20日をめどに取りまとめる。（泉田）・動画作成のタイミングはそれでよいと思う。（岡村）・次年度以降については委員会において意見を集約し事業計画に置き換えていくことで良いと思う。（岡村）・PPTは、出来しだいSlackに投稿するので、皆様からご意見を頂戴したいと思います。（泉田）３.e-learningに関する報告について・昨年度までに動画を10本ほど作成した。これらのコンテンツの動作確認等については、実施した。（泉田）・今年度は、環境面やしくみ作りや課金システム等についてははっきり決定していない。この辺りに関しては向こう２年間について国の方針とのすり合わせが必要となる。（岡村）・今年度事業のタスクとして、E-learningの運用費を計上していたと思うが、この辺りは次年度に持ち越して、環境整備・条件設定などを確定した後で公開に踏み切る必要がある。（岡村）・今年度は、環境面や課金のシステム等の方向性について話し合った。ただ、この件については、委員会レベルではなく理事会などにも確認する必要があると考える。（飯塚）４.次年度事業の方向性・研修の運用、テーマ、場所なども含めて皆さんの意見を頂戴したい。（泉田）・会場として東京・福岡で次年度以降も実施することは特段異論はない。内容は、受講者が受講することだけではなくその後の進捗などを聞き取れるようなしくみも必要だと考える。（藤井貴）・開催地区は変更することはできるのか（佐藤）・地区や回数、テーマ等について変更しても構わない。効果的に遡及できるエリアで開催することが望ましい。研修の性質を考えて適切な場所の選定が必要だと考える。例えば、大阪や名古屋のような大都市圏の参加が少ないと思うので、このエリアの参加者を増やすことなどは有効であると考える。（飯塚）・やはり東京は、東北・名古屋界隈まで来ていたと思う。福岡は麻生さんベースで考えていたと思う。同じエリアでリピーターが望めるか否かが重要である。東北だと仙台が望ましいと考える。（遠藤）・SDと職マネについては、本年度難しかった。この辺りは再度プログラムを作った方が良いと感じる。また、飯塚さんが言ったように集客しやすい場所等が場所として適切だと考える。場所を変えるということも検討課題だ。運用に関しては、開催場所から距離が近い方々が担当することが良いと感じる。（成底）・自己点検のようなものに関しては、全国的に広めていきたいというたぐいのものなので、関西や中部等で実施することが重要だと考える。知識を伝承するセミナー形式のものはオンライン等も活用することが必要だと考える。また、ワーク等の受講者参加型のセミナーの場合は対面で行うのが重要なので、足の利便性が良いところが良いと感じる。まずは、テーマを決め、方法を決め、場所を決めるといった順番だと考える。（飯塚）・研修の課題間については、皆さんの意見が重要です。積極的に発言してほしい。（岡村） |
| 配布資料 |  |

以上